

ロモーションに取り組んでいきたいと思います。

中村さん

そうやって色々な人たちが参加して、一緒にまちを盛り上げていかないといけませんよね。私は川掃除から始めて、もうかれこれ30年以上が経ちますが、今では企業だけでなく多くの市民の皆さんも参加し、応援してくれています。



市長

SDGsの実現に向けては、行政と民間企業、そしてさらには市民一人ひとりが連携し、一緒に取り組んでいく必要があります。そういった意味でも、今回の取組は単に水辺に新たなコンテンツが加わったというだけでなく、ヤマハのような世界的企業から喜多機械産業さんのような地元企業、そして、これまで徳島市の市民活動をリードされている新町川を守る会さんのようなNPOといった、非常に幅広い主体が連携していることに大きな価値があると思います。

喜多さん

私たちはこれまで太陽光パネルの販売・設置を行ってきましたが、近年では、使用済みパネルの廃棄が課題となっています。企業として「作る責任」と「捨てる責任」の両方を果たすため、今あるものを効率的に使うことこそSDGsの理念に沿うと考え、太陽光パネルのリサイクルやリユース事業に力を入れています。SDGsを自分事とし、一人ひとりの意識が変われば、よりよい未来につながると思います。



喜多機械産業株式会社

代表取締役社長 喜多 真一  
1989年徳島生まれ。2013年にUターンして喜多機械産業株式会社に入社。2021年代表取締役社長に就任。新規事業創出や人材育成、ダイバーシティ推進に取り組んでいる。

吉田さん

私たちも今回のHARMO導入を契機として、徳島市さんと包括連携協定を締結させていただきましたので、これまでの取組をさらに発展させるために、引き続き徳島の皆さんと共に歩んでいければと思います。環境に配慮した電動船が広がることで、より持続可能で快適な水辺の環境づくりが実現できると思いますので、今後、徳島市の水辺のまちづくりが全国のモデルケースとして注目されることを期待しています。



市長

皆さんにそういういただいて本当に頼もしいです。今回の取組を契機として、さらに「水都とくしま」の魅力アップに取り組んでいきます。また、他の場面でも多くの企業

や市民の皆さんを巻き込みながら、一緒に地域課題の解決に取り組んでいきたいと思います。

中村さん

まちづくりは私たち市民の行動にかかっていると思います。SDGsという理念は抽象的で、私たちには関係ないと思われがちですが、「自分にできることから始める」ことが何より大切です。そして、それを継続していくことが重要です。市民の皆さんにもまずはこのHARMO艇に乗ってもらい、まちの魅力を感じながら、少しだけSDGsについても考えるきっかけにしてもらえたたらと思います。



市長

今日は本当にありがとうございました。これからも連携の輪がさらに広がっていくよう、引き続きご協力をお願ひいたします。



▲船上座談会では、ナイトクルーズや婚活イベントなど様々な活用アイデアが飛び交い、電動船ならではの静謐性に、「川の流れや水の音をよりはっきりと感じられる」との感想や感嘆の声が上がりました。中村代表は「徳島には今、多くの観光客が訪れています。海外から来られる方も増え、そういう方々にもこの船を体験してもらい、この船を活用することで、徳島の魅力がさらに高まると思う」と期待を述べました。

## 地方創生AWARDを受賞しました

「ひょうたん島周遊船の電動化に向けた実証実験」と「太陽光パネルのリユース実証実験」の取組が、地方創生SDGsの実現に向けた先進的な公民連携プロジェクトであると評価され、一般社団法人公民連携推進機構が実施した公民連携・地方創生AWARDにおいて、「先進的なSDGs部門」のグランプリをダブル受賞しました。



ひょうたん島周遊船の電動化に向けた実証実験

太陽光パネルのリユース実証実験



**YAMAHA**  
Rev's Your Heart

**KITAKIKAI**